

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075400327		
法人名	ケア・サービス 株式会社		
事業所名	グループホーム かえで (華の街通り)		
所在地	〒807-1307 鞍手郡鞍手町大字室木801番地	TEL	0949-43-3900
自己評価作成日	令和03年11月01日	評価結果確定日	令和03年12月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaignokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	TEL	093-582-0294
訪問調査日	令和03年12月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

全体に対し決めておらず、利用者様の意見を尊重し第一に考え進め自由にゆったり過ごして頂け、広い中庭があり畑も出来る、お手伝いやたまに広いベランダにテーブルを移して昼食を楽しんでいただいています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ぬくもり・やさしさ・安全を踏まえて、日々個々の問題点を挙げその状況をどお対処し理念を踏まえたケアが出来るか、朝の申し送り時に共有し実践へ繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で利用者様のご家族ともお会い出来ない中、地域との繋がりやふれあいすら出来ない寂しい現状です、事業所の取り組みとして地域の皆様にお電話で声を聞き声を聴いてもらい、お元気ですか？からの会話で交流をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に一度の町の「元気祭り行事」がコロナ禍で中止になっておりパンフレット配布ニツ務めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	緊急事態宣言が出てからは、取り組めていませんが、利用者様の現状報告をお電話で、報告している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町役場担当者や質問をしたりと情報交換し協力関係を築くように取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の実践に関して①勉強会を開き実践に向けている。②拘束が必要な利用者様がいた場合例外三原則、身体の危険性がないか？スタッフ全員で様子観察し記録を取り検討しケアを行っていくことに努めている。		
7		○虐待の防止の徹底			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフがBPSDが悪化していないか、スタッフの悩み相談しストレスの軽減を図っている。入浴時には身体の確認を行い、少しのあざなどが見つければスタッフの聞き取りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	カンファレンス時、人権や権利を守られているか、共有し権利擁護とは何かを学ぶ時間を設けスキルアップに努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や、月に一度の担当者会議で、ご家族にケアプランを伝え、不安や問題点を伺い、ご家族・利用者様が安心できるように図っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で運営推進会議ができてないので、月に一度、利用者のご家族が来ていただいているので、その都度意見や要望を聞き、スタッフと共有し解決へ努めている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス時、人権や権利を守られているか共有し権利擁護と和何かを学ぶ時間を設けスキルアップに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力を把握し、個人面談を通じ、楽しく仕事に励めるように努めている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用時は、年齢性別は関係しておらず、党ホームで力を発揮したいかや、楽しく生き生きと仕事をできるよう、努め採用している。		
14	10	○人権教育・啓発活動			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権、尊重は当ホームの設立当初より、ホーム長がその言葉の重さ大切さを職員に伝え継がれ職員一同カンファレンスや日々に生かし務めてる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外の研修や、ミーティングを通して、一人一人の職歴や経験、能力を生かすようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や地域の福祉イベントには、積極的に参加し情報交換を行うことで、地域の福祉の把握と向上に努める。（現在はコロナ禍の為、機会は減少）		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴、正確・趣味・嗜好を把握しそれにつまるところから、コミュニケーションを取り、ご本人の言葉・表情を受容し安心していただける関係になるように努める。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の視点からくる不安、困りごとを傾聴し、それを解決する為に、誠実に一つ一つ介護支援を提供し、ホーム入所に対して不安の解消に努める。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族が、今一番解決していくべき問題点を的確に読み取り、それに対する支援を広い視野から提案、支援をしていく。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者がホームで生活する“ということを念頭に置き、このホーム内では、職員も共に生活の時間を共有する”という視点で、関係を築いていくようにしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の長い期間の、関係性に配慮し、電話で交流や短時間の面会を実施し、関係が途切れないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	キーパーソン以外の親戚や近隣の知人、友人の訪問や、電話に関しては、事前にキーパーソンの了解を得て、お継ぎする様にしている。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や趣味などを把握し、気の合う利用者同士でテーブルをともに、食事やレクリエーションを楽しんで頂くことで孤独にならない暮らしを支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用からの入院など、入所が中断された方は、随時病院に状況を訪ね、退院の目途が立った時は、ホームでの生活に際し必要な、ケアプランを検討する様にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の言動や体調や、性格から一人の生活リズムや、希望の暮らし方を、スタッフ全員で把握するようにしている。思いや希望がうまく表現できない方は、まずは本人が中心の穏やかな生活を、ケアプランに生かすようにしている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の職歴、生活歴、趣味から居室のしつらえに、花やポスターを飾ったり、より暮らしに楽しさと安らぎの、環境作りにつとめている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の生活に適した支援ネオ把握する為、初期に入手した情報だけでなく、ホームでの生活をモニタリングし、心身に適したケアの実施に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	不定期ではあるが、ご本人からの意見や希望、現在の生活状況でのモニタリング結果をスタッフで検討し、ケアプランに変更が必要か、見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入浴、食事、排泄、睡眠の記録だけでなく、一人一人の言動を記録に残すことで、全スタッフが情報を共有し、ケアの見直しに繋がっている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会が困難の中、利用者の必要な物資の購入や、外出などをご家族に事前に相談しながら、支援している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の知人との地域の行事参加や、組内の盆踊りへの参加を、実施していたがコロナ禍の為、現在は自粛している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームドクターによる、月二回の往診受診とともに、ご本人の心身に応じた専門科の受診も支援し、個人の健康状態の維持に努めている。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフに非常勤の看護師を一人配置し、介護スタッフと共に服薬管理や傷の手当などを支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は利用者の情報提供や、家族との連絡を速やかに行う、また入院治療中も、病院のソーシャルワーカーやドクターから、情報を伺い、今後のかわりを密にする為の関係づくりに努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在 当ホームでは看取りを希望される利用者・ご家族はいるが、重篤化や入退院を短期間で繰り返す利用者に対しては、医療の必要性も考慮し、ご家族と早急に今後の方針について話し合うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応に対し、救急時対応マニュアルを職員が直ぐに分かる場所に設置し備え、応急処置に関しては、看護師(かえでスタッフ)に手当方法を指導してもらい、実践につなげ身に付けている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍で利用者を含めた避難訓練ができなくなり、全職員で避難経路の確認、消火器の確認、日勤帯は手分けし、居室から誘導の想定訓練、夜間帯の水害時職員一人での想定訓練をした後良かった所悪かった所の話し合いをし努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会話、声掛け、利用者の声に傾け、コミュニケーションを取り変化の気づきにも気を配り、尊重、人格を守る対応を目指しカンファレンスなどで、個人情報の取り扱いや、職員の守秘義務についても慎重に行い、プライバシーを守る介護に努めている。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者ご本人から希望を聞き、表現できない利用者は、こちらからの声掛けや、信頼関係を築いていける様に努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人の生活リズムを大切にし、その人らしい生活江尾、優先し楽しく過ごせるよう支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床され、お一人おひとりの自宅での習慣や、家庭的な延長を、目指しかえることのないよう努めている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	芋ずるや、つくしのハカマ取りなど季節に応じた、野菜やお花などを見て頂いて、愛で楽しみ会話で楽しんで頂けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人おひとりの好みや量を把握し、水分も一日の目標量を目指し、摂取を支援している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方は見守りにて、磨きの腰はないか確認、介助の方は声掛けしながら、できる範囲した後介助をし、ぎしのかたはせんじょうさっきんをおこない、やかんのみおあずか		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全職員が排泄パターンの把握し、日中のトイレ誘導し、夜間は自立の方声掛けトイレ誘導し、おむつの方はお一人お一人のパターンでの交換をし、月に一度職員との話し合いを設け、おむつ・パットの軽減に向け取り組んでいる。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日2回のラジオ体操、リハビリ体操に毎日ではないが、散歩へ行く。水分摂取最低1リットルを目標に摂取して頂ける様、取り組んでいる。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一週間に、2回の入浴の支援をし、体調や気分を考慮し、午前・午後問わず入浴時間をゆっくり会話をし、楽しんで頂く様支援している。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自宅での生活習慣の延長を考え、自由に休息をして頂き好きなテレビ番組を見られたり、居室にて縫物をされたりと、リラックスされた状態で、眠れるよう支援している。		
49		○服薬支援	日に一回往診に来て頂く Drの指示のもと処方して		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かえでグループホームの職員が、お薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、全職員が理解し把握している、服薬時は必ず声を掛け合いダブルチェックをし、誤訳がないよう努め、体調変化は朝のバイタルチェックから観察し、コミュニケーションを図りながら少しでも早く変化に気付く様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりにあった趣味や嗜好を考え、縫い物やテレビのスポーツ観戦など、それぞれ自由にゆくりと、過ごされて頂ける様にしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で人混みには行けない為、季節の桜や紅葉の時期には、ソーシャル дистанスを保ち、少人数で車窓からの景色を見て楽しんで頂ける様支援している。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物支援もできなくなり、職員が買い物に出かける前に、お預かりしている財布の中を確認して頂き、理解して頂ける様努め支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族、利用者が希望され、電話を取り次いだり、はがきをポスト投函などの支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	まいにちの掃除+アルコール消毒を常に清潔保持に、勤めリビング居室の温度、明るさに気を付け、居室などは香りのきつくない芳香剤などを使ったりと、季節の花を飾ったりしている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	樹のあった利用者や、日ごろお話できていない利用者には無理なく強制せず、声掛け誘導し職員と一緒に話しコミュニケーションを図れるよう努め、ソファなどでゆくりできる共有空間作りに工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅ですぐ使い慣れた布団やまくら、家族写真、裁縫道具、テレビなど持ち込まれ、少しでも自宅での暮らし慣れた延長を目指し居心地よく、過ごして頂ける様工夫している。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は、車椅子の方も安全に入っていけるスペースに手すりの確保、歩行される方は、できる限りの手すりを付けており、介助の必要方は、安全なケアに心かけている。		